

アマレ火、是今の地形、古トカガリ多ル所ノ大様カ也、略中土地ハスベテ西ノ方ニ山々連ルリテ、北ヨリ東南ヘハ山ノ根ヲ廻リテ平地カリ、ソノ邊ハ自ラヒクケレバ、水田モ多シ、土性ハ多ク眞土カリ、マタ山ニシヒタル方ハ、陸田山林多クレド、山谷ノ間纔ニ平ヲカカレ地ニヨリテ、水ヲ冬冬ヘ水田ヲ耕ス所モアリ、風俗ハ大抵近郡ニシテカレモトカシ、サレド都筑郡ニヨリタル方ハ、山アヒハ寒村多クレバ、人民質樸ハ風アリ、

〔日本書紀十八〕元年閏十二月、武藏國造笠原直使主、略申護爲國家、奉置橫淳橋、花、略中四處屯倉、〔續日本紀二十九〕神護景雲二年六月癸巳、武藏國橋樹郡人飛鳥部吉志五百國於同國久良郡獲白雉獻焉、

〔萬葉集三十〕天平勝寶七歲乙未二月、相替遣筑紫諸國防人等歌、伊波呂爾波、安之布多氣騰母、須美與氣牟都久之爾伊多里氏、古布志氣毛波母、

右一首橋樹郡上丁物部眞根、

〔武藏濱路三〕荏原郡 東ハ海、西ハ世田ヶ谷代田ヲ限リ、多摩郡也、南ハ玉川ヲ界、北澀谷川流、新堀ヲ限、

〔和名抄諸國郡考武藏〕荏原 江波良 今江戶麻生青山の邊をいへりと云、中山田與清云、 ばなるべし、もとは荏原の郡に隸たりけり、江戶と云名の境は世々にかはり行習ひなれば、後豊島郡に隸るにや、荏原と云るも、荏の生列たる貌に云詞なり、安藝國高田郡麻原郷あるにも思ひ合すべし、縣居翁の江の門の象といはれしは、しひごとにて、此わたり江の門ともいひつべき地形、古へにもきこえず、今もあることなし、さるな古學に心をよせし人た、大江の御門とさへいふ、みだりことになん、

〔新編武藏風土記稿荏原郡〕總說

荏原ノ郡ハ、其名義ノ起リシユヘテ詳ニセズ、和名抄ヲ閱スルニ、郡中ニ荏原郷アリ、郷ヨリ起ルシ郡名ナルモシルベカラズ、是豊島郡ニ豊島村入間郡、高麗郡ニ高麗本郷アリ、類ナルカ、或

荏原郡